

礼拝：2021年9月26日 聖霊降臨節第19主日

交読：交読詩編119編9～16節

聖書：詩編90編13～17節

マタイによる福音書20章1～16節

説教：「神の報酬」 柳澤 宗光

ガリラヤ湖の西方にあるガリラヤ。主イエスの伝道活動が、なされた地。そのガリラヤを去り、エルサレムに上る途上、天の国についての譬え話をされます。このエルサレムへの途上における出来事は、ただ一つの縦糸で繋がれています。そこに貫かれているものは、神の愛についての教えです。キリストの教会で、主イエス・キリストに〔従うこと〕とは、わたしたちにとって、どのような事なのか、そのことが問われています。そして、主イエス・キリストに〔従うこと〕と、その〔報酬〕との関係を、今朝の御言葉は語っているのです。

エルサレムへの途上、主イエスに、一人の金持ちの青年が、近寄って来て尋ねます。「先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか（マタ19:16）。」「永遠の命を得る」（マコ19:16）事と、「天の国に入る」（マコ19:23）事は、同義語です。主イエスは、「貧しい人々に施し、天に富を積みなさい。」「それから、私に従いなさい（マタ19:21）。」と、応えます。しかし、青年は、主イエスの下を、「悲しみながら、立ち去った。」のです。御言葉は、青年の揺れ動く深い葛藤を「悲しみながら（マタ19:22）」と伝えています。ここで、主イエスは、弟子たちに、「金持ちが天の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい（マタ19:24）。」と明言されます。その話を聞き、弟子たちは非常に驚きます。弟子たちに留まらず、わたしたちをも驚かすのです。

今、この地球上には、多くの方々が、難民として困窮した生活を余儀なくされています。8千万人。その数は、日本の人口の半数を超えています。しかし、人々は、適切な支援を受けることも出来ず、生死の狭間に置かれ、わたしたちと同じ、この地上をさまよい続けているのです。今、わたしたちは基本的に、食べることに困らず、雨露をしのぎ、清潔に生活する場が与えられています。困窮する方々から、はっきりと見えているのは、わたしたち一人ひとりが、〔針の穴を通ることが難しい金持ち〕たちなのです。御言葉に語られる、〔金持ちの青年〕とは、他ならぬ、わたしたちのことなのです。

そこで、弟子たちは、疑問の声をあげます。「それでは、だれが救われるのだろうか（マタ19:25）。」ルカによる福音書19章8節には、主に救われた、金持ちの徴税人ザアカイの物語が、記されています。先ほどの、金持ちの青

年は、「先生（マタ19:16）」と呼びかけました。しかし、ザアカイは、「主よ（ルカ19:8）」と呼び掛けたのです。彼は、信仰を告白し、財産の放棄をも訴えたのです。主イエスは、「今日、救いがこの家を訪れた（ルカ19:9）。」と宣言されました。この時、〔徴税人ザアカイというラクダ〕が、針の穴を通ったのです。「それは人間にできることではないが、神には何でもできる（マタ19:26）」事なのです。それこそが、「恵のみわざ」なのです。ザアカイのように、主の御前に「へりくだること」なしに、私たちが、〔永遠の命〕を得ることも、〔天の国に入ること〕も、赦されていない事を、御言葉は伝えています。

この流れの中で、ペトロが質問します。「わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました。では、わたしたちは何を戴けるのでしょうか（マタ19:27）。」「わたしの名のために、全てを捨てた者は、永遠の命を受け継ぐ。」（マタ19:30）。ここで、主イエスに〔従っていく〕ことと、その〔報酬〕として、天の国に入ることとの関係が、顕わにされるのです（マタ19:29）。しかし、同時に、主イエスは、ペトロの質問に内包する余りにも人間的な要望、欲望の危険性について忠告を与えます。「先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる（マタ19:30）。」。

更に、「ぶどう園の譬え話」の後には、弟子であるゼベダイの息子たち二人を伴って、母が、主イエスのところにやって来たことが記されています。主の王国では、二人に最上の座を与え、一人は主の右に、もう一人は左に座らせてほしいと願うのです。母によって、代弁されるごとく、弟子たちの関心は、どこまでも、その〔報酬〕にあるのです。〔天の国に入ること〕だけではならず、〔天の国における序列〕までを求めているのです（マタ20:20-23）。しかし、主は、「偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆の僕になりなさい（マタ20:26）。」と、命じるのです。「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる（マタ20:16）。」地上の秩序と、天の国の秩序は、違うものであることを、教えられているのです。

「ぶどう園の労働者の譬え」は、こうした文脈の中で、語られているのです。〔主イエスに従うこと〕と、その〔報酬〕との関わりについて語られているのです。ここでは、〔ぶどう園の主人〕の行為が、天の国に、譬えられています。主人の一貫した行動と、その姿勢が天の国に譬えられているのです。

定職がない人々は、広場に立ち、仕事に来るのをひたすら待ち続けます。この人たちは、労働者の中でも一番低い底辺の階級に属する日雇い労務者たちです。生活は極めて不安定で、困窮していた事は明らかです。奴隷や使用人は少なくとも家族に属していたので、その生活は、

安定し、飢える心配ありません。しかし、日雇い労務者の場合はそれと全く異なり、仕事は、保証されていません。日常的に、飢えとの闘いに晒されて生きていたはずです。こういう日雇い労務者たちにとって、1日の失業は、家族にとっても悲劇であったはずです。

ぶどうが熟すのは9月。そのあとすぐ雨期が来ます。雨が降る前に、ぶどうを取り入れてしまわないと、ぶどうは腐ってしまいます。そこで、一刻を争う収穫期には人手が必要なのです。1日に1時間しか働けない人でも歓迎されます。収穫期は、ぶどう園にとっては、1年のなかで、最も忙しい繁忙期なのです。この機会を外したら、日雇い労務者たちが、困窮の度合いを増すことは明らかです。ぶどう園の主人は、働く労務者を求めて、広場に行きます。最初に出かけたのは、夜明け時です。そして、9時、12時、3時に、広場に行き、立っている人々に声を掛けます。更には、もう1日が終わろうとする5時にまで、主人は広場に足を運んだのです。とすると、ぶどう園の主人は、夜明けから、日没近くまでの丸一日、5回も人捜しに明け暮れていたことになります。その行為は、幾らぶどう収穫の繁忙期とは言え、度を越えていることは明らかです。しかも、5時過ぎに、ぶどう園に来た労務者には、働く時間は殆ど無いはずです。それでも、ぶどう園の主人は、労務者に声を掛け続けます。「あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう(マタ 20:4)」。「今からでも決して遅くはない。ぶどう園に来なさい。あなたにふさわしい恵みを与えよう。」とされているのです。ここには、〔神の慰め〕があります。神の国には、早く入る人も、遅くに入る人もいます。陽の昇るような青年期に入る人も、陽の傾き始めた老年期に信仰に入る者もいます。しかし、神の前には、みな等しく尊い存在なのです。その入る時は異なっても、皆、神の前に尊い人たちである事に代わりはありません。神は、だれをも、ぶどう園の主人のように、等しく祝福されるのです。

そして、夕方、ぶどう園の主人は、監督に〔報酬〕の支払いを命じるのです。「最後に来た者から始めて、最初に来た者まで、順番に賃金を払ってやりなさい(マタ 20:8)」。「ぶどう園の労務者たちがした仕事の時間、仕事の量は、明らかに違います。しかし、同額の〔報酬〕が与えられたのです。ここに神の憐れみと、寛大さがあります。神がわれわれに与えられるのは、神の恵みからでたものです。神が与えられるのは〔人間の報酬〕ではなく〔恩寵〕です。それが、〔神の報酬〕なのです。しかし、賃金を貰う労務者の列に動揺が走ります。最後尾から、支払いが始まります。支払う監督の前に順番に労務者たちは来ます。5時頃雇われた、最後尾の人が、最初に1デナリオンの〔報酬〕を貰います(マタ 20:9)。そして、最後に、朝から働いていた〔最初に雇われた人〕たちの順

番が来ます。当然、5時頃、〔最後に雇われた人〕よりもっと多くもらえるだろうと思っていました(マタ 20:10)。しかし、同じ1デナリオンの〔報酬〕です。〔最初に雇われた人〕たちが不平を言い出します(マタ 20:11)。〔同等ではない労働時間〕に対する〔同等の報酬〕は〔不公平〕なのです。太陽は、ぶどう園で明け方から11時間近く働いた人々の上に照り続けました。しかし、広場で明け方から5時まで11時間近くも、惨めな思いをしながら、仕事を探し続けていた人々の上にも、等しく昇り照り続けていたのです。全ての人々に、平等に暑さと、それに伴う労苦をもたらしたのです。地上からの人間的な視点ではなく、天からみると両者の労苦に差はないのです。ですから、主人は分け隔てなく1デナリオンを「報酬」として与えたのです。

この譬えは、弟子たちへの警告です。主イエスは、ペテロに、こう言われたのではないのでしょうか。「あなたがたは、最初から居た者として、特別な名誉や地位を得ようと思っはなりません。すべての人は、交わりに入る時期にかかわらず、神の前には等しく大切なものだからです」。キリストの教会では、年長者に必ずしも名誉があるわけではありません。名誉があるとしたら、新しく入ってこられた方にも、神の前に、同等の名誉が与えられるべきものです。「子供たちを来させなさい。」「天の国はこのような者たちのものである(マタ 19:14)」と、主イエスは言われているのです。キリストの教会での〔報酬〕。それを決める規準は、ただ神のみが持っているのです。

ペテロの問いは、「わたしたちは何をいただけるのでしょうか(マタ 19:27)」であった。キリスト者が働くのは、働く喜びのため、神と人に奉仕する喜びのためだけです。この世で多くの〔報酬〕を受けた者が神の国で一番低い地位を与えられる(ルカ 16:23)、ということが起こり得るのは、その人が〔報酬〕だけを考えてきたからです。そこで、「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる(マタ 20:16)」ということも起こりうるのです。この世では貧しい人が、神の国で偉大な人となる場合もあるということです。〔報酬〕を望む者はこれを失い、〔報酬〕を忘れる者がこれを得るとは、キリスト者の生活の逆説なのです。

キリストの教会では、全てが、〔神の報酬〕に従います。〔神の報酬〕は、地位や、名誉、ましてや財産ではなく、〔神の愛〕なのです。〔神の報酬〕は、年長者にも、新来者にも、分け隔て無く、平等に与えられる〔神の愛〕なのです。そして、〔神の報酬〕は、分け隔て無く、公平に支払われる、〔永遠の命〕なのです。

讚美：讚美歌507 献金 主の祈り 黙祷